第３学年　国語科学習指導案

１　単元名　　大事なことをたしかめよう「すがたをかえる大豆」

２　指導観

○　本学級の児童の実態

本学級の児童はこれまでに，まとまりに気をつけて読もう「ありの行列」の学習で，「問い」と「答え」のある文章構成を学んだり，形式段落ごとに中心となる言葉や文を見つけて要約する力を身に付けたりしてきた。その中で，接続語や指示語，文末表現に着目する読み方や，敬体を常体に換えたり，二文を一文にまとめたりする要点の書き方を習得している。

また，場面の様子をそうぞうしながら読もう「ちいちゃんのかげおくり」の学習では，比較しながら読む読み方を経験している。例えば，「食べました。」と「かじりました。」という似た言葉を比較して，ちいちゃんの体が弱っていっていることを読み取った。また，場面ごとのちいちゃんの気持ちや様子を比較することで，家族に会いたい気持ちは強まり，体はだんだん衰弱していることを読み取った。その他にも，作者の表現の工夫を読む読み方として，「小さな女の子の命が，空に消えました。」という表現から，戦争で命を落としたのはちいちゃんだけではなく，幼い命をも奪う戦争を，二度と繰り返してはならないという作者の思いを読み取った。

このように，基本的な説明文の読み方と，物語文での比較する読み方や作者の表現の工夫を読む読み方を学習してきたが，説明文での比較する読み方や筆者の表現の工夫を読む読み方は，まだ経験していない。

○　本教材の価値

本教材は，そのままでは固くて食べにくく消化にもよくない大豆を，様々な工夫を加えることによって，食べやすい別の食品に変えていく知恵について書かれた説明文である。

文章構成の特質としては，初め，中，終わりの三つの意味段落から構成された解説型の説明文である。初めの段落では，大豆を提示し，大豆の基礎知識が述べられている。中の段落は，「その形のまま，いったりにたりしてやわらかくおいしくするくふう」，「こなにひいて食べるくふう」，「大切なえいようを取り出してちがう食品にするくふう」，「目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にするくふう」，「とり入れる時期や育て方のくふう」の五つの形式段落に分かれていて，それぞれに，おいしく食べる工夫，作る手順，食品が書かれている。そのため，形式段落をそれぞれ比較しながら読むことで，筆者の伝えたい事柄を明確に読み取ることができる。終わりの段落では，多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想が書かれている。

文章表現の特質としては，接続語が効果的に使われており，その意味用法を考えさせることが，段落相互の関係をつかむ手掛かりとなる。また，「いる」「にる」「くわえる」「かりる」などの動詞が多用されており，語彙を増やし，食品に対する興味を広げるきっかけともなる教材である。

○　本教材における「比較する力」とは

第３学年で身に付けたい「比較する力」は，言葉と言葉，文と文，段落と段落を比較し，中心となる言葉や文をとらえ，段落相互の関係をつかむ力である。

本教材における「比較する力」とは，接続語，文末表現などに着目しながら，段落と段落を比較して，段落相互の関係と筆者の表現の工夫を読み取る力である。

具体的には，まず，題名と冒頭から「大豆はどんな工夫でどんな食品にすがたをかえるのだろう。」という読みのめあてをつくる。次に，読みのめあての答えをまとめるときには，③～⑦の段落に着目させ，おいしく食べる工夫と大豆がすがたをかえた食品について表にまとめさせる。学習計画では，⑧段落はまとめ，⑨段落は筆者の感想（驚き）が書かれていることをとらえさせ，筆者がどんなことに驚いたのか，③～⑦段落を詳しく読み確かめていく計画を立てる。

読み確かめでは，③～⑦段落を，前の段落と比較することで，知恵のすばらしさを読み確かめていく。まず，③段落と④段落を比較して知恵のすばらしさを読み確かめる。その際，相違点として「その形のまま」と「こなにひいて」で食品の形が違うことをとらえさせた後に共通点を考えさせることで，固くて食べにくい大豆をいったりにたりひいたりして食べやすくする知恵のすばらしさに気付かせる。次に，③④段落と⑤段落を比較して知恵のすばらしさを読み確かめる。その際，「できあがります。」と「なります。」という筆者の表現の工夫に着目させ，豆腐は手の加え方が複雑であるが，大切な栄養だけを取りだして食べやすくする知恵のすばらしさに気付かせる。その次に，⑤段落と⑥段落を比較して知恵のすばらしさを読み確かめる。その際，共通点として「ちがう食品にする」工夫であることをとらえさせた後，相違点として，「また」と「さらに」に着目させて，菌やカビの力を借りた手間をかけずに違う食品に変える知恵のすばらしさを読み確かめる。最後に，③～⑥段落と⑦段落を比較して知恵のすばらしさを読み確かめる。その際，「これらのほかに」という接続語で③～⑥と区別した筆者の表現の工夫に着目させ，大豆だけでなくダイズにも手を加えて別の食品に変えた知恵のすばらしさに気付かせる。

読みのまとめでは，「すがたをかえる」とはどんなことだったのか振り返らせる。さらに，文章構成を見直し，筆者の表現の工夫についてもまとめ，次時の「書くこと」の学習へとつなげる。

○　自分の考えと根拠をもたせる言語活動の手だて

ア　学習プリントの工夫

・比較する形式段落を左右に配置し，中央に自分の考えと根拠を書くスペースを取る。

イ　比較の視点

・くふう，筆者の表現の工夫

ウ　板書の工夫

・学習プリントと同じ構成にする。

・視点ごとにまとめて書き，筆者の表現の工夫だけチョークの色を変える。

エ　指示の工夫

・共通点や相違点を分かりやすく書いたり話したりするための文型を与える。

共通点「どちらも～。」

相違点「○は～だけど，△は…。」

３　単元目標（○価値●技能◎比較）

○　大豆をおいしく食べる工夫をして，食べやすい食品にかえる昔の人々の知恵を読み取り，身近な食べ物についても調べて，分かったことを段落に注意して表現することができる。

●　中心となる言葉や文をとらえて要約し，接続語，文末表現に注意して読む読み方を身に付けることができる。

◎　段落と段落の中心となる言葉や文，接続語，文末表現などを比べて読むことで，筆者の伝えたい事柄を読み取ったり，筆者の表現のよさに気付いたりすることができる。

4　単元計画（読む 10 時間　　書く８時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（◎は比較に関するもの）
読みのめあて	1	1　題名と冒頭をつないで読み，読みのめあてをつくる。 (1) 単元名とリード文から学習の構えをつくる。 (2) 題名と冒頭をつなぎ，読みのめあてをつくる。 〈読みのめあて〉 大豆は，どんなくふうで，どんな食品にすがたをかえるのだろう。	○　説明文を読んだ後，自分たちで調べて表現するという見通しをもたせる。 ○　大豆の実物を提示し固くて食べにくいことを実感させ，おいしく食べる工夫をしているわけをとらえさせる。
読みのめあての答え	2 3	2　読みのめあてに沿って全文を読み通し，読みのめあての答えをまとめる。 (1) 全文を音読する。 (2) 読みのめあての答えを自分で書く。 〈読みのめあての答え〉	○　９つの形式段落をとらえさせる。 ○　接続後に着目させ，工夫と食品は③～⑦の段落にあることに気付かせる。 ○　③～⑦の段落の工夫と食品を表にまとめさせる。
学習計画	4 5		
読み確かめ	6	て読み確かめる。 (1) ③段落と④段落のくふうを比べて読み確かめる。	◎　③段落と④段落の内容と書き表し方の違いを考えさせることで，固くて食べにくい大豆をいったりにたりひいたりして食べやすくした昔の人々のちえを読み取らせる。
	7	(2) ⑤段落のくふうを③④段落と比べて読み確か	◎　③④段落と⑤段落の内容と書き表し

段落	おいしく食べるくふう	大豆がすがたをかえた食品
③	その形のままいったりにたりしてやわらかくおいしくするくふう	豆まきに使う豆・に豆
④	こなにひいて食べるくふう	きなこ
⑤	大切なえいようだけを取り出して，ちがう食品にするくふう	とうふ
⑥	目に見えない小さな生物の力をかりて，ちがう食品にするくふう	なっとう・みそ・しょうゆ
⑦	とり入れる時期や育て方のくふう	えだ豆・もやし

		める。	方の違いを考えさせることで，複雑で手間がかかるが食べやすくするちえを読み取らせる。
	8 **本時**	(3) ⑥段落のくふうを⑤段落と比べて読み確かめる。	◎　⑤段落と⑥段落の内容と書き表し方の違いを考えさせることで，小さな生物の力をかりて手間のかからない加工をするちえを読み取らせる。
	9	(4) ⑦段落のくふうを③～⑥段落と比べて読み確かめる。	◎　③～⑥段落と⑦段落の内容と書き表し方の違いを考えさせることで，大豆だけでなくダイズに手を加えるちえを読み取らせる。
読みのまとめ	10	5　読みと読み方をまとめる。	○　掲示物を用いて，筆者が驚いた大豆をおいしくする工夫を振り返り，読みのまとめを書きまとめさせる。 ○　大豆以外の食品の写真や実物を示し，次時の学習への興味をもたせる。
書く	11	6　身近な食べ物について調べて、書く。 (1) 「食べ物はかせになろう」の冒頭を読み，学習のめあてと見通しをもつ。	○　「すがたをかえる大豆」に出てきた米や麦を例示し，調べてみたいことを発表させ，学習の見通しをもたせる。
	12	(2) 「調べることを決めよう」を読み，何のどんなことについて調べるのか決める。	○　教科書の例を参考にして，何のどんなことについて調べるか決めさせる。
	13	(3) 「調べよう」を読み，本の調べ方を知る。	○　「物語」「詩集」「辞書」「図鑑」を準備し，調べたいことがどのジャンルの本に書いてありそうか考えさせる。 ○　題名，目次，索引に着目することを知らせ，なぜそうするのがいいのか考えさせる。
	14	(4) 目的にあった図書資料を探し，情報カードに書いて整理する。	○　目的にあったページに付箋を付けさせ，要約させながら情報カードに書かせ，取捨選択して順番を決めさせる。
	15 16	(5) 整理した情報カードを基に，文章に書きまとめる。	○　題名の付け方，書き出しの書き方，段落の分け方は教科書の例を参考にさせる。
	17 18	(6) 書いた文章をグループで読み合い、清書する。 身近な食べ物について本で調べ，調べたことを書いてみんなに知らせよう。	○　誤字脱字はないか，よくわからないとはないかという観点で読み合いをさせる。
		(7) お互いの文章を読み，評価する。	○　書き方のよさを評価させる。

5　本時（8／18時）　　平成22年10月　　日（　）　　校時

6　本時の目標（○価値●技能◎比較）

○　大豆を「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」にかえるくふうは，小さな生物の力をかりて手間を省き，ちがう食品にかえるすばらしいちえであることを読み取ることができる。

●　接続語や文末表現を読む読み方を身に付けることができる。

◎　⑤段落と⑥段落のくふうや筆者の表現の工夫を比べて読む。

7　本時指導の考え方

これまでに，児童は,「大豆は，どんなくふうで，どんな食品にすがたをかえるのだろう。」という読みのめあてをつくり，形式段落を要約した後，③④，⑤段落を,「筆者がおどろいたちえとは，どんなくふうのことだろう。」という疑問を基に読み確かめてきた。

本時は，⑥段落の「目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にするくふう」のくふうを，⑤段落と比べることで読み確かめる学習である。

本時の導入にあたっては，前時を振り返り，前の段落と比べることでどんなくふうかを読み確かめることができたことを想起させ，本時も前の段落と比べて読み確かめようという必要感をもたせる。

本時の展開にあたっては，まず，⑤段落と⑥段落の相違点を見つけさせる。その際,「かりて」,「おいて」,「なります。」という言葉に着目させ，⑤段落は複雑な工夫であることに対し，⑥段落は人にできないことを小さな生物にしてもらっている工夫であることを読み取らせる。また，書き表し方の工夫からは，例示されている食品の数から，⑤段落は一つであるのに対し，⑥段落は三つの事例があることに気付かせる。次に，⑤段落と⑥段落の共通点を見つけさせる。その際,「ちがう食品にする」という言葉に着目させ，どちらも大豆に手を加えて違う食品にしている工夫であることを読み取らせる。その次に，⑥段落の例示が三つあることから,「なっとう」と「みそ」・「しょうゆ」の共通点や相違点を見つけさせる。その際，生物の違い，置いておく場所や時間の違いを読み取らせるようにする。最後に，⑤段落の「また」，⑥段落の「さらに」という接続語に着目させ，⑥段落には⑤段落よりもすばらしい知恵が書かれていることに気付かせる。

本時の終末にあたっては，読みのまとめとして,「今日の学習で」に，比べて分かったくふうと筆者の表現の工夫を書きまとめさせる。その際，書き出しを与えて，書きまとめやすくする。

検証の視点
○　自分の考えと根拠をもたせるためのア・イ・ウ・エの手だては有効であったか。

8　本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◎は比較に関するもの）
1　前時を振り返り，学習計画を確認して本時のめあてをつかむ。 〈めあて〉	○　⑤段落の知恵のすばらしさは，③④段落と比べることで確かめることができたことを想起させ，本時も前の段落と比べる必要感をもたせる。
「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」のくふうを,「とうふ」のくふうとくらべて読みたしかめよう。	
2　⑥段落を音読する。	○　「、」や「。」での間の取り方を揃えて読むよう，指示する。
3　⑤段落と⑥段落のくふうの相違点や共通点を見つけて書く。	◎　共通点は「○も△も～。」，相違点「○は～だけど，△は…。」という文型で書くことを指示する。
4　⑤段落と⑥段落のくふうの共通点を話し合う。	○　どちらも,「ちがう食品」にしていることを読み取らせる。
5　⑤段落と⑥段落のくふうの相違点を話し合う。	○　「とうふ」は，大切な栄養を取り出すためにすることが多くあったが,「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」は，生物の力をかりて，待っているだけで食品になることを読み取らせる。 ○　「かりて」,「おいて」,「なります」という言葉から，生物の力をかりるくふうであることを読み取らせる。
6　⑥段落の「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」の相違点を見つけてサイドラインを引き，話し合う。	○　「ナットウキン」と「コウジカビ」という生物の違い，「あたたかい場所」と「風通しのよい暗い所」という場所の違い,「一日近く」と「半年から一年の間」という時間の違いを読み取らせる。
7　比べて分かった⑥段落のくふうと筆者の表現の工夫をまとめ,「今日の学習で」に書きまとめる。 〈まとめ〉	○　どうして⑤，⑥の順に説明されているのかを問い，⑤段落の「また」，⑥段落の「さらに」という接続語に着目させる。 ◎　『「とうふ」のくふうは～だけど,「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」のくふうは…。だから，国分さんは，○○という言葉を使って書いている。』という書き出しを与える。
「とうふ」は，大切なえいようだけを取り出してちがう食品にするくふうで作るのがたいへんだったけど,「なっとう」,「みそ」・「しょうゆ」は，小さな生物に力をかりてちがう食品にするから，時間はかかるけど，することは少なくてすむくふうだということが分かりました。だから，国分さんは,「かりて」や「おいて」や「になります。」という言葉や「さらに」というつなぎ言葉を使って書いている。	